

電気通信大学 平成17年度シラバス

| | | | |
|---------|-------------------------|----------|--------|
| 授業科目名 | 基礎プログラミングおよび演習 | | |
| 英文授業科目名 | Fundamental Programming | | |
| 開講年度 | 2005年度 | 開講年次 | 1年次 |
| 開講学期 | 2学期 | 開講コース・課程 | 夜間主コース |
| 授業の方法 | | 単位数 | 2 |
| 科目区分 | 専門科目-専門基礎科目-必修科目 | | |
| 開講学科・専攻 | 情報工学科 | | |
| 担当教官名 | 村尾 裕一 | | |
| 居室 | 西9-801 | | |

| | |
|-------------------|---|
| 公開E-Mail | 授業関連Webページ |
| mura@cs.uec.ac.jp | http://www.edu.cc.uec.ac.jp/~hmura_j/lecture/BP/05B/ |

| |
|--|
| 【主題および達成目標】 |
| 前学期のコンピュータリテラシーに引き続く形で、講義と演習とを歩調を合せて進行する。プログラミング言語はC言語を用いるが、これは様々な分野において実用的な言語としてCが広く利用されているからである。 |

| |
|-------------------------|
| 【前もって履修しておくべき科目】 |
| コンピュータリテラシー |

| |
|------------------------------|
| 【前もって履修しておくことが望ましい科目】 |
| なし |

| |
|---|
| 【教科書等】 |
| <p>毎回資料を配布する。</p> <p>参考書：定番として B.W.Kernighan, D.Ritchie: The C Programming language: ANSI C Version, 2nd Edition. Prentice Hall (1988).</p> <p>(邦訳) B.W.カーニハン, D.リッチー/石田晴久訳：プログラミング言語C, ANSI規格準拠, 第二版. 共立出版 (1989).</p> |

【授業内容とその進め方】

主要な内容は次の通りであるが、講義の順序はこの通りではなく、本学科として必要と思われる例題を適宜おりませて講義を進める。

1. コンピュータリテラシーの復習，繰り返しと場合分け
2. 基本的な制御構造のまとめ
3. 1〜2に対応する演習
4. 構造を持つデータ(1) 1次元配列
5. 4に対応する演習
6. 構造を持つデータ(2) 2次元配列
7. プログラムの分割 関数(1)，引数
8. 6〜7に対応する演習
9. プログラムの分割 関数(2)，ブロック
10. 構造を持つデータ(3) 構造体
11. 構造を持つデータの組み合わせ
12. 9〜11に対応する演習
13. 再帰
14. 説明し残した機能
15. 12〜14に対応する演習

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

(a) 評価方法：

演習のレポート(50%)，および2月の期末試験の成績(50%)で評価する。

(b) 評価基準：

以下の到達レベルをもって合格の最低基準とする。

- (1) 基本的なデータ型と演算に関して理解していること。
- (2) 手続き・関数の動作，役割を理解していること。
- (3) 構造を持つデータを適切に扱うことができること。
- (4) 課されたレポート数の80%以上を提出していること。
- (5) レポートの内容については，与えられた問題に関してプログラムを作成，実行し，結果に関する考察がきちんとなされていること。

【オフィスアワー：授業相談】

授業・演習時間の前後で適宜相談に応じる。また、電子メールによる質問等も随時受けつける。

【学生へのメッセージ】

電気通信大学 平成17年度シラバス

| |
|-------|
| 【その他】 |
| |